

20191111 第121回 運輸の日

場 所：東神トラックステーション

配布数：44部

行動者：今井 勇 （ヤマト運輸 厚木）

篠町 達也（ヤマトボックスチャーター）

山上 和也（全日通 神奈川）

浅井 義昭（丸全昭和運輸）



本日も東神トラックステーションでの行動、本日で4日目になりました。

休み明けの月曜日、昨日から待機中なのか？満車状態ですが、カーテンが閉まっているトラックが大半です。ベテラン勢の行動者4名は、各持ち場にて『計画運休』の是非について聞き取り、また、自身がどのような状況だったのかなど、世間話しの中から聞き取り調査を行いました。

ドライバーさんの声

○個人的には走りたいが、行き先や途中ルートがどの程度危険なのか？渋滞もするだろうから、やはり止めるべきでしょう。

○大手の運送会社○○○○は、自分の会社は止まっているのに、私たちには通常通り配車された。危険な目には合わなかったが、気疲れした。

行動者の感想

今井：天候も良く活動しやすく、安全PR、計画運休のアンケート、ボールペン配布がスムーズに出来ました。10時頃は数台の空き駐車スペースがありましたが、すぐに満車状態になり諦めて退散するトラックがあり気の毒に思いました。そして駐車場の緑地帯には、コンビニで買った弁当箱や空き缶など様々なゴミが捨てられています。トラックステーション常駐の方々だけでは清掃が追いつけない状態と伺いました。県連でクリーンキャンペーンと題して毎年、清掃活動を行いますが、トラックステーション全体を清掃するには、いつもより多数の方々に参加していただかないと、強く思いました。



旗町:納品先や経由地で台風等の自然災害の危険が見込まれる場合、鉄道のように予め計画運休をするべきか否かについてアンケートを行いました。大部分のドライバーは賛成とのことでしたが、一部の方は、「荷主の都合によるので、そんなことは不可能ではないか」と、懐疑的な反応でした。また、荷を積んで出発してから荷主に連絡をとり、判断を仰ぐと答えてくれたドライバーもいました。運送会社の側で運休を決める習慣が浸透していない現実を考えると、荷主の数を多く抱えるほど、対応は煩雑であり、ドライバー自らが荷主や納品先への確認に追われる現実が見えてきました。



山上: 台風や自然災害における計画運休について、アンケートを実施しました。
どの運送会社も顧客から要請があれば、運行せざるを得ない状態とのことでした。
運休した運送会社も顧客からの指示で運行を取り止めたとのこと、運送会社が主導したものでは、ありませんでした。
計画運休の賛否については、全てのドライバーが必要であると回答しました。
台風や大雪など、自然災害に対する危機管理を運送会社自身が、ドライバーの安全を第一に考え、顧客対応する必要性を感じました。



浅井: 久しぶりに組織拡大行動に参加させていただきました。
一番に感じたのは東神TSの汚れです。
ゴミが散乱していたり、雑草が生い茂ったりと以前より少し汚れたように思いました。施設は新しいので残念です。
自然災害時の仕事について尋ねるとほぼほぼ休んだとのこと、インフラとしての物流の課題でもあると感じました。